

I C T街づくり推進会議 地域懇談会@熊本県高森町 議事要旨

1. 日時

平成28年3月17日(木) 11:15~12:45

2. 場所

熊本県高森町役場

3. 出席者

(1) I C T街づくり推進会議構成員

岡座長、辻田氏(岩沙構成員代理)、牧野氏(石原構成員代理)

(2) 事業関係者

草村高森町長、田上同町議会議長、佐藤同町総務課長、後藤同町農林政策課長、定光同町政策推進課課長補佐、村上同町農林政策課農林振興係長、後藤同町有害鳥獣駆除隊上色見隊長

(3) 総務省

丹代九州総合通信局長、小笠原情報通信政策課長

4. 議事

(1) 事業概要の説明

(2) デモンストレーション、視察

(3) 意見交換

5. 議事概要

(1) 事業概要の説明

村上高森町農林政策課農林振興係長より、資料1に基づき、システム概要や事業内容について説明が行われた。

(2) デモンストレーション、視察

センサーネットワークを活用した鳥獣被害対策のデモンストレーション、視察が行われた。

(3) 意見交換

主な発言は以下のとおり。

【村上高森町農林政策課農林振興係長】

- 農家の方々が共同作業で農地を守るという取組の一環として鳥獣被害対策に取り組まれている。まずは最大限に自衛に取り組み、それでも対応できない部分の駆除にICTを用いている。
- 捕獲したイノシシをジビエとして活用することに関しては、猟師が自家で食用にしてはいるが、流通に乗せることについては、食肉加工場やトレーサビリティの課題もあり、現在は取りかかれていない状況。

【牧野氏（石原構成員代理）】

- ジビエとしての活用については、長野県など積極的に取り組んでいる地域もあるので、横の連携や情報交換を行うと良いのではないかと思う。
- 安価な通信ネットワークを使うことで、よりコスト削減できると思う。

【後藤高森町有害鳥獣駆除隊上色見隊長】

- メールが届くのは主に夜中だが、画像で檻の中の様子を確認できるため、見に行く必要がなく便利。一方で、大きいイノシシがくくり罠にかかると危ないため、毎日見回りもするようにしているが、頻繁には行きにくい山頂付近に罠を設置できれば効果があると思う。
- 最も良かったのは、今まで捕獲が困難だった50～60kg級の大きな成獣を捕獲することが可能な点。ただし、鉄筋でも曲げて逃げてしまう例もあり、人間が近寄ると暴れる可能性があるため捕獲した後にも注意が必要。
- 実際には、持ち運びに便利なくくり罠のほうがよく捕獲できる。箱罠の場合は1か月程設置することになり、また、1度獲れると、同じ場所にはイノシシがなかなか来なくなるため、次の捕獲まで期間が空かないよううまく誘導する必要がある。

【草村高森町長】

- ジビエに関しては、議会でも議論され、最終的な戦略ツールの一つとしては考えるべきだと思うが、熊本では馬刺しが有名であり、収支面や、長野県との環境の違いなどもあるので、まずはしっかりとしたガイドラインを作ることが非常に重要であると考えている。
- 本町では全世帯に光ブロードバンドが入っており、ケーブルテレビで自主放送番組を見ることができる。そういったツールも活用して積極的に成果・効果をアピールし、宮崎や大分など、九州全体に広げていきたい。

【田上高森町議会議長】

- 猟友会の高齢化が進んでいる中、今回のシステムを導入したことで、檻や罟の見回り負担や時間コストを軽減することができた。
- ただし、有害獣をゼロに近づけ、被害を完全になくすためには、やはり二重、三重に他の方法も併用する必要がある。

【岡座長】

- このテーマの一番の被害者、受益者は畑を荒らされる農業従事者であり、農家の方々に関心を高めて参画していただくような形になるように力点を置くことが重要。
- 高森町だけではなく広域の市町村で協議会を立ち上げて、課題解決に向かっているということは大変素晴らしい。こういった取組を続けることで、例えば、九州全体で鳥獣被害を7割減らした、などといったことが近い将来達成できればと良いと思うが、我々も可能な限り応援させて頂きたい。
- 高森町は地方版総合戦略を策定し、その柱の一つに、「稼げる農業」を掲げている。その実現のためにも重要な政策の一つであると考えられるので、本取組に引き続き力を入れていただきたい。
- 農業が成長産業になるための一環として、鳥獣被害対策は大きな課題。ICTの活用により農業が成長産業へと繋がっていくよう協力していきたい。

以上